

2010年2月1日

## ギブン・イメージング、カプセル内視鏡の新製品

イスラエルの医療機器メーカーの日本法人、ギブン・イメージング(東京・千代田、今江博之社長)は口から飲み込んで腸内を撮影するカプセル内視鏡の新製品を2月にも日本市場に投入する。内蔵する撮影機構を改良し、画像の大きさを従来機の2倍以上に拡大した。カプセル内視鏡を使った小腸の検査は普及しつつある。高精細な画像が得られる製品を投入し、検査を導入する病院数の拡大を目指す。

「ピルカムSB2」は内部にCCD(電荷結合素子)カメラを内蔵。患者の消化器がぜん動運動するのに合わせて体内を約8時間かけて移動する間に内部を一定間隔で撮影する。画像は患者の体に付けたアンテナを介して外部の端末に記録する。

=日経産業新聞=